

第4章

テレビコマーシャルによる

障害者スポーツ情報発信環境調査

①障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル実態調査

調査概要

(1)調査名

障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル実態調査

(2)調査目的

障害者スポーツ関連のテレビコマーシャルの実態(放送年、競技、出演者など)を把握し、社会のムーブメント形成の背景を探る。

(3)データ抽出内容／データ抽出条件

継続的に保存されている関東キー局のテレビコマーシャル放送実績データベースより、障害者スポーツ、障害者スポーツ競技が画面上に表出しているテレビコマーシャルをテキスト検索にて抽出(データ提供者 ニホンモニター株式会社)

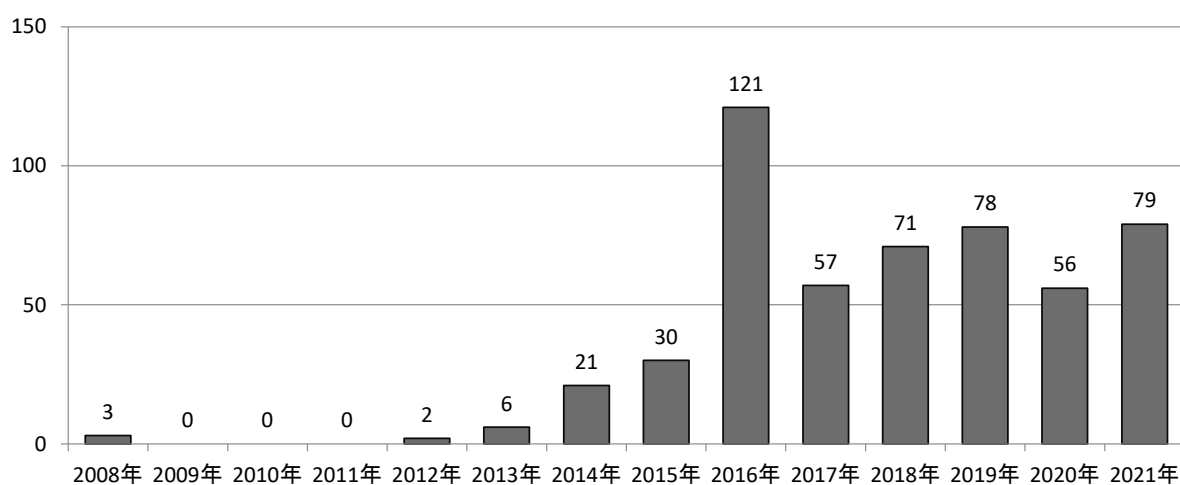
(4)データ抽出期間

2008年1月1日～2021年12月31日

1.年別にみる障害者スポーツ関連のコマーシャル本数の変遷

障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル本数を年別にみると、北京 2008 大会が開催された 2008 年は 3 本、ロンドン 2012 大会が開催された 2012 年は 2 本であった(図表 4-1)。東京 2020 大会の開催が決定した 2013 年以降、徐々に本数は増え、2014 年に 20 本、2015 年に 30 本、2016 年には 120 本を越えた。2017 年以降は 50~80 本で推移した。

図表 4-1 年別にみる障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル本数
(2008 年~2021 年)

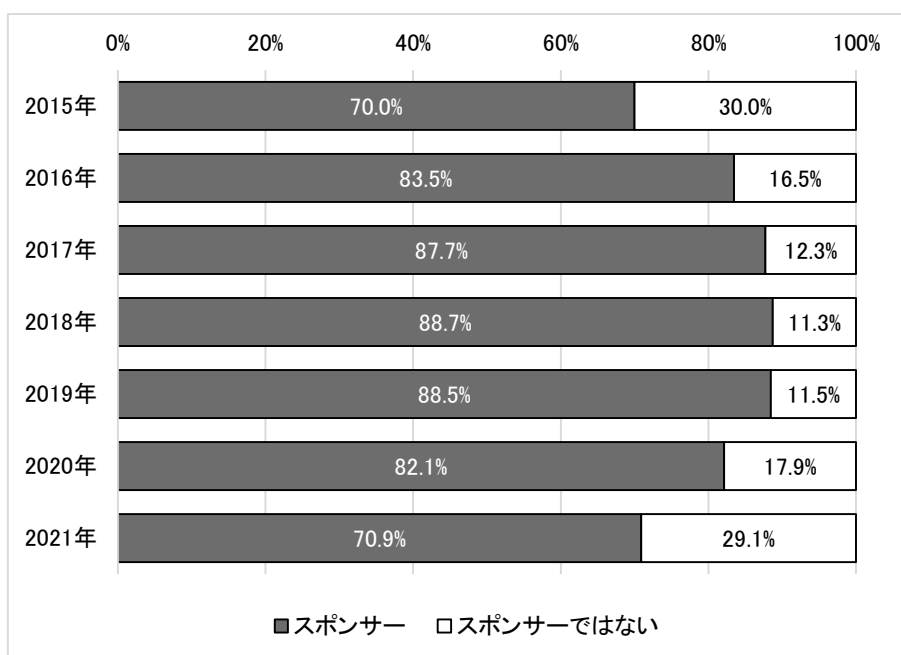


(注)2008~2017 年は、前回調査(2017 年度)のデータをもとに、本調査ではパラリンピック関連ロゴが掲載されている CM を追加した

2.スポンサー別にみる障害者スポーツ関連のコマーシャル本数の変遷

2015年1月から東京2020大会のスポンサー契約が開始以降の障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル本数の割合を「東京2020スポンサーシッププログラム」企業(スポンサー)別にみると、2015年は70.0%、2016年～2020年では8割以上がスポンサー企業だった(図表4-2)。

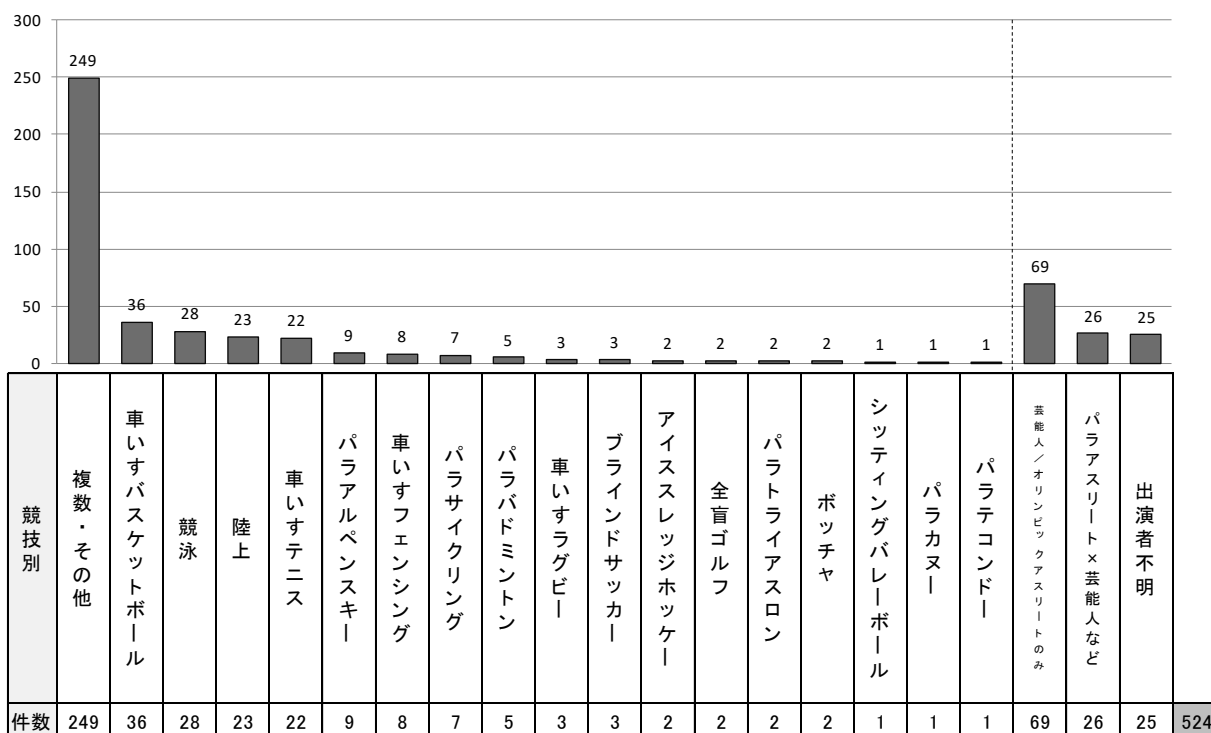
図表4-2 スポンサー別にみる障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル本数
(2015年～2021年)



3.競技別にみる障害者スポーツ関連のCM本数

テレビCMをタイトル、および出演者の実施競技をもとに競技別に分類した(図表4-3)。タイトル、出演者から競技が特定できなかったCMについては「複数・その他」として集計した。最も多かったのは「複数・その他」の249本で、ついで「車いすバスケットボール」(36本)、「競泳」(28本)、「陸上」(23本)、「車いすテニス」(22本)であった。

図表 4-3 競技別にみる障害者スポーツ関連のテレビCM本数(2008年～2021年)



②パラアスリート起用のテレビコマーシャル実態調査

調査概要

(1) 調査名

パラアスリート起用のテレビコマーシャル実態調査

(2) 調査目的

パラアスリートを起用したテレビコマーシャルの実態(選手、競技、広告主など)を把握し、社会のムーブメント形成の背景を探る。

(3) データ抽出内容／データ抽出条件

テレビスポーツデータ年鑑 2008～2021(ニホンモニター株式会社発行)の掲載データより、アスリート名／競技名／広告主が明確なデータを抽出

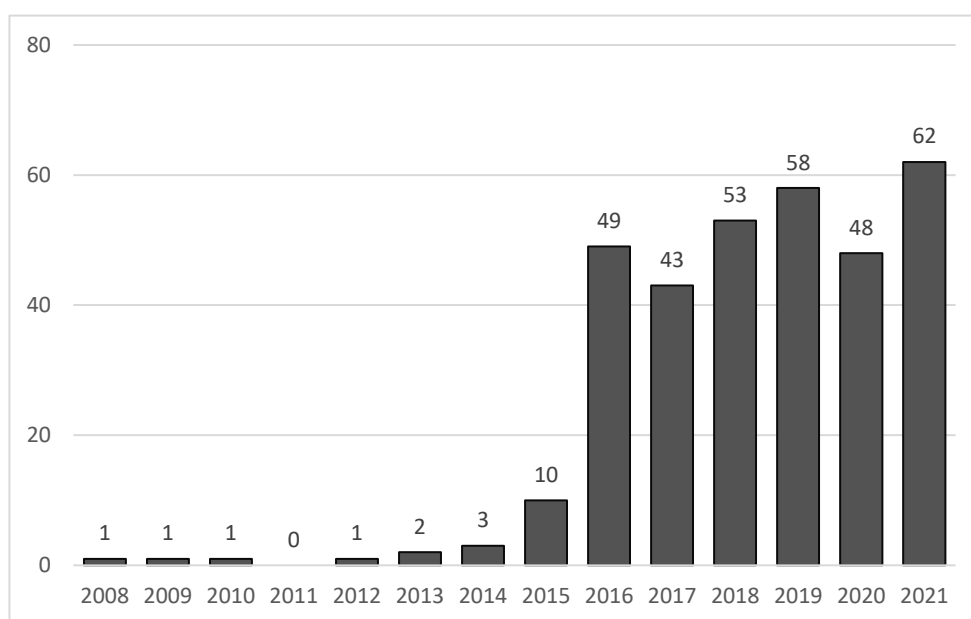
(4) データ抽出期間

2008年1月1日～2021年12月31日

1.年別にみるパラアスリート起用のコマーシャル本数の変遷

2008年～2021年までに、パラアスリートを起用したテレビコマーシャル本数は332本だった。年別にみると、2008年、2012年は国枝慎吾選手(車いすテニス)、2009年、2010年は京谷和幸選手(車いすバスケットボール)だった。東京2020大会の開催が決定した2013年以降、徐々に本数は増え、2015年には10本、2016年以降は40本を超えて推移している(図表4-4)。

図表4-4 年別にみるパラアスリート起用のテレビコマーシャル本数(2008年～2021年)



2.パラアスリート別にみるコマーシャル本数の変遷

2015年1月から東京2020大会のスポンサー契約が開始以降のパラアスリート起用のテレビコマーシャル本数をパラアスリート別にみると、1位は「国枝慎吾」(21本)、2位は「上地結衣」(15本)、3位は「池崎大輔」(12本)だった(図表4-5)。

図表4-5 パラアスリート別にみるテレビコマーシャル本数(2015年～2021年)

| NO | 選手名 | 競技 | 総数 (2015年～2021年) |
|----|-------------|-------------|---------------------|
| 1 | 国枝 慎吾 | 車いすテニス | 21 |
| 2 | 上地 結衣 | 車いすテニス | 15 |
| 3 | 池崎 大輔 | 車いすラグビー | 12 |
| 4 | 高桑 早生 | パラ陸上競技 | 10 |
| 5 | 池 透暢 | 車いすラグビー | 9 |
| | 豊田 まみ子 | パラバドミントン | 9 |
| 7 | 佐藤 圭太 | パラ陸上競技 | 8 |
| | 山田 拓朗 | パラ水泳 | 8 |
| 9 | 今井 友明 | 車いすラグビー | 7 |
| | 秦 由加子 | パラトライアスロン | 7 |
| | 大西 瞳 | パラ陸上競技 | 7 |
| | 中西 麻耶 | パラ陸上競技 | 7 |
| | 木村 敬一 | パラ水泳 | 7 |
| 14 | 鈴木 徹 | パラ陸上競技 | 6 |
| 15 | 村上 清加 | パラ陸上競技 | 5 |
| | ベアトリーチェ・ヴィオ | パラフェンシング | 5 |
| | 一ノ瀬 メイ | パラ水泳 | 5 |
| | 山本 篤 | パラ陸上競技 | 5 |
| | 瀬立 モニカ | パラカヌー | 5 |
| | 川原 凜 | 車いすバスケットボール | 5 |
| | 谷 真海 | パラトライアスロン | 5 |

3.まとめと考察

障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル、パラアスリート起用のテレビコマーシャルと2つの調査を実施したが、いずれの調査結果からも2016年からテレビコマーシャル本数が急増したことが明らかとなった。東京大会の開催が決定した2013年以降、2014年に東京2020組織委員会が発足、2015年に「東京2020スポンサーシッププログラム」の募集が開始され、東京大会に向けた開催準備が本格的に進み始めた。2016年のリオデジャネイロ大会の開催時期も重なり、2016年以降のテレビコマーシャル本数の急増につながった。障害者スポーツ関連のテレビコマーシャルが、2016年には121本と初めて100本を超え、前年比4倍増となった。2017年以降は50本以上で推移し、東京大会が開催される2020年に向けて徐々に本数が増えるはずであった。2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、東京大会は1年延期され、コロナ禍による自粛ムードも相まって、2020年の本数は2016年から半減する結果になった。1年延長となった東京大会の開催年である2021年には79本と多少は持ち直したが、2016年の121本と比べると決して多いとは言えない。

パラアスリート起用のテレビコマーシャル本数も同様で、2016年に49本と前年比約5倍増となり、徐々に本数が増えるはずであったが、2020年には一時減少した。いずれの調査結果からも、コロナ禍がテレビコマーシャルにも影響したことがうかがえる。

競技別にみると、「複数・その他」が最も多かった。「複数・その他」には、複数競技のテレビコマーシャルに加えて、東京パラリンピックをきっかけとした共生社会実現に向けた啓蒙的なコマーシャルや出演者名が特定できないコマーシャルなどが含まれる。2015年9月には、国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として、持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)に対して、日本でも積極的に取り組み始めた。その世界的潮流に、東京大会の基本コンセプトとして掲げられた「多様性と調和」が合致して、啓蒙のコマーシャルが増えたとも考えられる。

(小淵和也)

【コラム】 プロアスリート・国枝慎吾選手が残した功績について考える

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所

政策ディレクター 小淵和也

2023年1月22日、男子車いすテニスの国枝慎吾氏が現役引退を発表した。国枝氏は四大大会で通算50勝(男子シングルス28勝、男子ダブルス22勝)、パラリンピックはアテネ2004大会から東京2020大会まで5大会連続出場、北京、ロンドン、東京の3大会で金メダルを獲得した、言わずと知れた世界的レジェンドである。

国枝氏の主な戦績を振り返ってみたい。2007年に男子シングルスでは史上初となる年間グランドスラム(全豪オープン、ジャパンオープン、ブリティッシュオープン、全米ウィールチェアの四大大会)を達成した。当時の四大大会は現在のグランドスラムと大会が異なっており、健常者と同じ現在のグランドスラム(全豪オープン、全仏オープン、ウィンブルドン選手権、全米オープン)になったのは2009年のルール改正時で、ウィンブルドン選手権にシングルスが追加されたのは2016年のことである。2022年、ウィンブルドン選手権を制覇したことにより、男子シングルス初の四大大会制覇の「キャリアグランドスラム」を達成、四大大会制覇にパラリンピック制覇が加わる「キャリアゴールデンスラム」の偉業も成し遂げた。全豪オープン優勝11回、全仏オープン優勝8回、ウィンブルドン選手権優勝1回、全米オープン優勝8回は前人未達の功績と言える。2023年3月、国枝氏への国民栄誉賞の授与が決定したことからも、これまでに歩んできたキャリアがパラスポーツ界だけに留まらず、日本国民に大きなインパクトを残してきたことの証と言えるだろう。

本稿では、国枝氏がわが国に与えた社会的インパクトの観点から概観する。ヤマハ発動機スポーツ振興財団(以下、YMFS)「パラリンピアンに対する社会的認知度調査」(2017)では、リオ2016パラリンピック大会(リオ2016大会)の終了後に、全国の20歳以上の男女約2,000人を対象に、リオ2016大会に出場したパラリンピアン認知度調査を実施した。第1位は国枝氏で、「知っている」(20.9%)、「聞いたことがある」(13.1%)を合わせた認知度は34.0%であった(図表4-6)。第2位の上地結衣選手の認知度が14.8%だったことを考えると国枝氏の認知度が一人だけ高いことがわかる。国枝氏の実施競技が「車いすテニス」であることを知っている「正答率」は79.2%で、国枝氏を認知している人の約8割は車いすテニスの選手であることを把握していた。YMFS「パラリンピアンに対する社会的認知度調査」(2022)では、東京2020パラリンピック大会(東京2020大会)終了後に全国の20

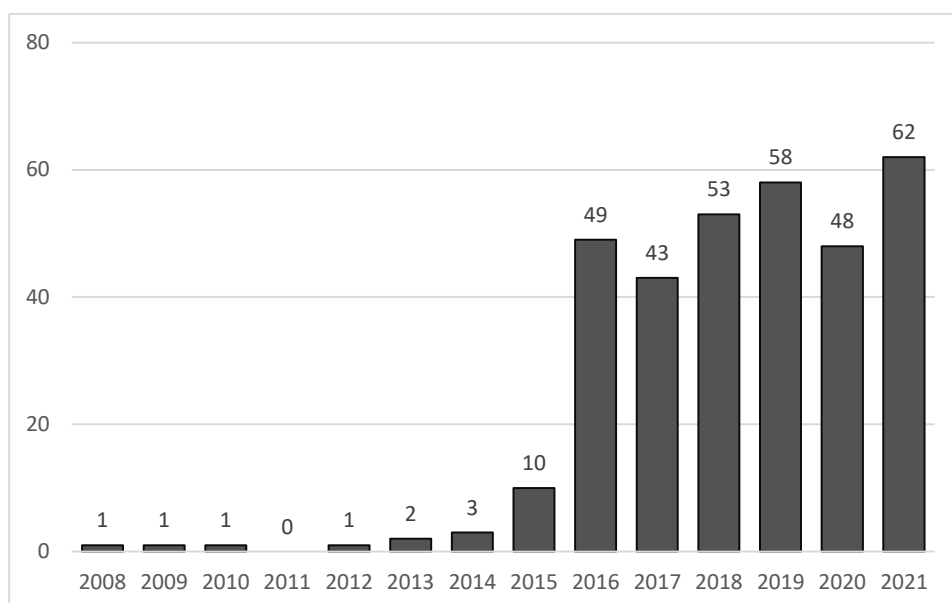
歳以上の男女約 2,000 人を対象に、東京 2020 大会に出場したパラリンピアンへの認知度調査を実施した。リオ 2016 大会同様、第 1 位は国枝氏、第 2 位は上地選手であった。国枝氏を「知っている」(31.3%)、「聞いたことがある」(13.9%)を合わせた認知度は 45.2%で、リオ 2016 大会の 34.0%から 11.2 ポイント増加した。国枝氏の実施競技が「車いすテニス」であることを知っている「正答率」は 81.7%でリオ 2016 大会の 79.2%から 2.5 ポイント増加した。国民の約 2 人に 1 人が「車いすテニスプレーヤー・国枝慎吾」を認知していた。2009 年からはプロアスリートとして活動を始め、パラスポーツ界の第 1 人者として、誰も歩んでこなかった道を切り開き、結果を残してきた実績は、日本国民の意識にも大きな影響を与えてきたことが推察できる。

図表 4-6 パラリンピアンへの認知度と正答率:上位 5 位(リオ 2016 大会・東京 2020 大会)

| リオ2016大会 | | | | | 東京2020大会 | | | | |
|----------|--------|----------------------------|--------|-------|----------|-------|----------------------------|---------|-------|
| 順位 | 氏名 | 認知している (知っている+聞いたことがある) | 競技名 | 正答率 | 順位 | 氏名 | 認知している (知っている+聞いたことがある) | 競技名 | 正答率 |
| 1 | 国枝 慎吾 | 34.0% | 車いすテニス | 79.2% | 1 | 国枝 慎吾 | 45.2% | 車いすテニス | 81.7% |
| 2 | 上地 結衣 | 14.8% | 車いすテニス | 56.4% | 2 | 上地 結衣 | 22.5% | 車いすテニス | 71.2% |
| 3 | 成田 真由美 | 10.5% | 水泳 | 60.8% | 3 | 富田 宇宙 | 11.3% | 水泳 | 36.8% |
| 4 | 一ノ瀬 メイ | 8.3% | 水泳 | 32.4% | 4 | 池崎 大輔 | 8.7% | 車いすラグビー | 28.3% |
| 5 | 辻 沙絵 | 6.1% | 陸上競技 | 40.8% | 5 | 山本 篤 | 7.9% | 陸上競技 | 37.7% |

YMFS「パラアスリート起用のテレビコマーシャル(TVCM)」実態調査(2022)では、パラアスリートを起用した TVCM の実態を把握した(図表 4-7)。2008 年時にはパラアスリートが起用された TVCM は 1 件のみであったが、その 1 件が国枝氏の出演する TVCM であった。東京 2020 大会の開催が決定する 2013 年よりも 5 年も前の出来事である。

図表 4-7(再掲) パラアスリート起用関連の CM 件数(2008~2021)



2008 年は、国枝氏が 2007 年に車いすテニス男子シングルス史上初の年間グランドスラムを達成した翌年である。「共生社会」という言葉が今ほど出てこなかった時代である。メディアや国民、企業などがパラリンピックに注目する以前から、国枝氏が世界で結果を残し、著名なアスリートが起用されることの多い TVCM に唯一の障害者のアスリートとして出演してきたことがわかる。“障害者の代表”としてではなく、プロアスリートとしての結果が評価されメディアに登場していたと言える。

東京 2020 大会の大会スポンサーの契約が始まったのは 2015 年である。2016 年からはパラアスリートを起用した TVCM が急増し、現在もその傾向は続いている。2015 年～2021 年までのパラアスリートを起用した CM 数の首位も国枝氏(21 件)だった(図表 4-8)。2013 年に東京 2020 大会の開催が決定した以降も、東京 2020 大会の顔としての役割を各所から期待されていたことがうかがえる。

図表 4-8(再掲) パラアスリート別 CM 数 (2015~2021)上位 20 位

| NO | 選手名 | 競技 | 総数 (2015年~2021年) |
|----|-------------|-------------|---------------------|
| 1 | 国枝 慎吾 | 車いすテニス | 21 |
| 2 | 上地 結衣 | 車いすテニス | 15 |
| 3 | 池崎 大輔 | 車いすラグビー | 12 |
| 4 | 高桑 早生 | パラ陸上競技 | 10 |
| 5 | 池 透暢 | 車いすラグビー | 9 |
| | 豊田 まみ子 | パラバドミントン | 9 |
| 7 | 佐藤 圭太 | パラ陸上競技 | 8 |
| | 山田 拓朗 | パラ水泳 | 8 |
| 9 | 今井 友明 | 車いすラグビー | 7 |
| | 秦 由加子 | パラトライアスロン | 7 |
| | 大西 瞳 | パラ陸上競技 | 7 |
| | 中西 麻耶 | パラ陸上競技 | 7 |
| | 木村 敬一 | パラ水泳 | 7 |
| 14 | 鈴木 徹 | パラ陸上競技 | 6 |
| 15 | 村上 清加 | パラ陸上競技 | 5 |
| | ベアトリーチェ・ヴィオ | パラフェンシング | 5 |
| | 一ノ瀬 メイ | パラ水泳 | 5 |
| | 山本 篤 | パラ陸上競技 | 5 |
| | 瀬立 モニカ | パラカヌー | 5 |
| | 川原 凜 | 車いすバスケットボール | 5 |
| | 谷 真海 | パラトライアスロン | 5 |

世間が注目する以前から結果を出し続け、さらに世間の注目が高まった中、特に東京2020 大会では日本選手団の主将を務め、地元開催のプレッシャーに打ち勝っての金メダル獲得は、後世に語り継がれる前人未到の偉業と言える。国枝氏の現役引退はわが国のパラスポーツにとって、ひとつの転換点になると考える。国枝氏のようなスーパーヒーローの出現も待たれるところだが、パラスポーツ界全体で盛り上げていく意識がさらに重要になるだろう。

参考文献等

プロ車いすテニスプレイヤー国枝慎吾公式サイト: <https://shingokunieda.com/>
(2023/3/1)

ヤマハ発動機スポーツ振興財団「パラリンピアンに対する社会的認知度調査」(2017)

ヤマハ発動機スポーツ振興財団「パラリンピアンに対する社会的認知度調査」(2022)

ヤマハ発動機スポーツ振興財団「パラアスリート起用のテレビコマーシャル(TVCM)」実態調査(2022)

